

輸出事業計画

※申請者名：株式会社稲庭うどん小川 品目：稲庭うどん

1. 輸出における現状と課題

【背景】

稲庭うどんは、長い歴史のある秋田県稲庭の名産品である。

現在、国内市場では食生活の変化等に伴い、稲庭うどんの消費量が減少傾向にあるが、海外市場では北米、欧州などの地域を中心に和食レストランの増加等により、稲庭うどんが麺料理として広く受け入れられ需要が年々拡大している。

国内の乾麺市場は、チルド麺や冷凍麺等の需要拡大により厳しさを増し、今後の需要の先細りが懸念されていることから、当社では2016年より輸出事業に本格的に取り組み、海外市場の開拓を積極的に進めており、直接輸出にも注力している。

海外バイヤーとの商談では「ISO22000」の認証を求められることが多くなっており、今後の輸出拡大に対応するため、令和8年度にISO22000を取得するための新工場を建設予定である。また、新工場の完成にあわせて「海外事業部」を設置し、英語が話せる人材を採用するなど、輸出体制をさらに強化していく方針である。

【これまでの輸出取組】

20年ほど前から乾麺の海外への販路拡大に取り組んでいる。国内商社を通して、東南アジア等への間接輸出から始まり、現在は香港が最大の輸出先国である。

令和5年度より秋田県加工食品輸出拡大協議会を設立し、クラスター事業を通じて秋田県の加工食品の生産者やジェトロ秋田、秋田県やGFP等と連携を行いながら、チーム一丸となって輸出取組を実施している。

ISO22000が求められ市場規模の大きい英国・フランス・米国の3か国をメインターゲット国に据え、規制対応（ディフェンス面）・ニーズ把握（オフェンス面）の両面から輸出取組に注力するほか、認証取得後は現地系スーパーとの取引も見据えている。

【課題】（英国・フランス・米国共通）

製造

・生産者の高齢化が進んでいることもあり、生産拡大に伴う労力不足が顕著になっている。

加工

・ISO22000等の国際認証を取得することのできる工場を保有していない。

物流

・工場・倉庫・事務所・発送場所が点在しているため、輸送コストが大きい。

販売

・ISO22000等の国際認証を取得していないため現地の小売店等との商談ができない場合が多い。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社稲庭うどん小川 品目：稲庭うどん

2. 輸出事業計画の取組内容

【課題解決に向けた取組内容】

製造（英国・フランス・米国共通）

- 令和8年度に現在の事務所近くに、3000坪規模の今後の働き手不足を考慮した新工場を建設する。手延べ機械設備を導入し技術を導入することで省人化・省力化を図り、現在の商品の食味を守りつつ、生産拡大に伴う労力不足を解決する。

加工（英国・フランス・米国共通）

- 令和8年度に建設予定の新工場で、秋田県信用保証協会の専門家派遣事業の支援を受けながら、ISO22000を取得できる体制を構築する。

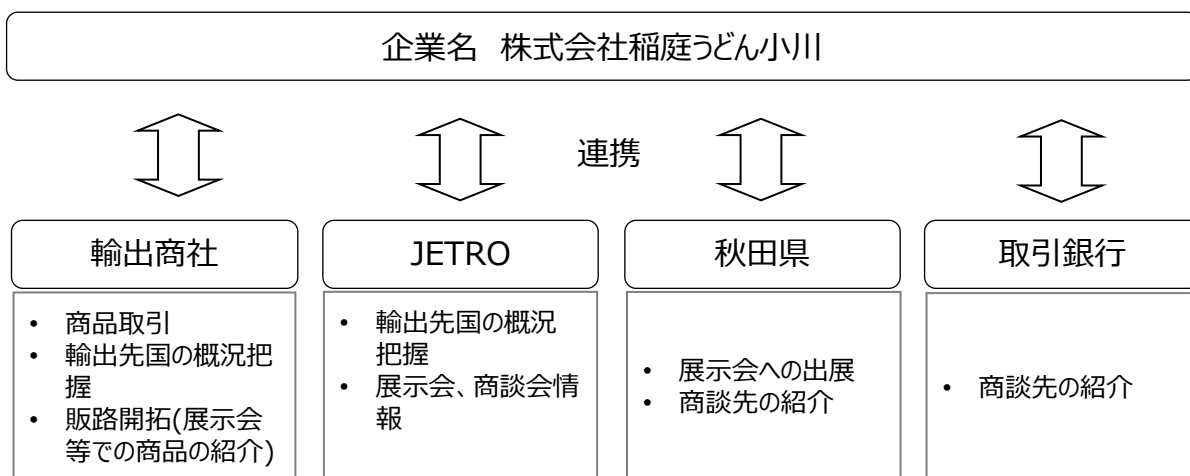
物流（英国・フランス・米国共通）

- 令和8年度に建設予定の新工場は、工場機能に加えて倉庫機能を全て集約することで輸送コストを削減し、加えて事務所機能も集約することで各部門が意思疎通を対面で容易に行うことができ、効率よく出荷できる体制を構築する。

販売（英国・フランス・米国共通）

- 令和8年度は、令和7年度に引き続き秋田県信用保証協会の専門家派遣事業のISO22000の取得支援を受けながらソフト面とハード面の両輪で確かな取組を行い、今後の機会損失を防ぐ。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



【輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制】

P：取引商社及びJETROからの現地情報/規制情報や現地訪問によるニーズ把握に基づき、輸出事業計画を検討

D：計画に基づき、国内・海外での商談会・フェア販売等へ参加し、輸出を実施

C：輸出の進捗状況について、商社・JETROや現地訪問で把握した販売状況等の評価・アドバイスを踏まえ、必要に応じて計画を見直し

A：上記のフィードバック等を通じて現地消費者の求める商品製造・改善に着手

輸出事業計画

※申請者名：株式会社稲庭うどん小川 品目：稲庭うどん

4. 輸出目標額

輸出品目：稲庭うどん		現状 (令和6年度)	目標年 (令和13年度)
秋田地区	輸出額(千円)	0	100,000
	輸出量 (kg)	0	73,800
	輸出先国	-	米国・英国・フランス